

研修会および在宅ホスピスフェスタ

北九州緩和ケアネットワーク

〒803-0844 福岡県北九州市小倉北区真鶴 1-4-11

助成事業の概要

実際に体験した具体的な事例を題材にして研修会を企画し、医療・介護・福祉の領域の垣根を越えて、多職種がお互いの立場や価値観を理解し合い、現場においてよりスムーズな連携が図れるようになることを目的とした。

研修会は、5 月 30 日「YAKOO！知恵袋～薬局の先生に聞いてみよう～」、7 月 6 日 ELNEC-J コアカリキュラム研修会、10 月 2 日「緩和ケアお悩み相談室」～ケアマネはみんな悩んでいる～、11 月 27 日「在宅における排便コントロール」と題して、それぞれオンラインと対面のハイブリットで行った。

また、2026 年 3 月 29 日に在宅ホスピスフェスタを開催した。今回はドキュメンタリー映画「がんと生きる」の上映、およびがん哲学外来で著名な樋野興夫先生、海南病院緩和ケア病棟医師の大橋洋平先生のお二人にご登壇いただき、病気にとられずよりよく生きることについて貴重なお話をいただいた。一般市民の参加も多く、アンケート結果もおおむね満足された内容であった。

事業の成果

研修会は、オンライン参加が多勢ではあるが、毎回 100 名以上の参加者があり、オンライン開催のため北九州市以外からの参加者もあり、認知度が向上している。何より、現場で起きている具体的な事例や、情報提供などが親しみやすく、すぐに現場に生かせることとして、好評を得てい

る。特に、「緩和ケアお悩み相談室」は定例化してきており、地域からの具体的な相談事例の提供も増えており（情報は匿名化して個人情報保護に配慮）、現場におけるそれぞれの課題表出とその解決策を皆で模索するプロセスは、机上論ではない具体性があり、より現実的な課題解決に役だっていることがアンケートなどからもうかがえる。在宅ホスピスフェスタでは、今回は特にがんとの向き合い方をテーマに著明なお二人の先生にご登壇いただき、ドキュメンタリー映画の上映を交えて、講演会のかたちで開催した。

長年、「がん哲学外来」を実践され、がんとの向き合い生き方を提唱されてきた樋野先生の実践と哲学、そしてご自身ががんを患った経験から、がんとの向き合い方と、生き方を悟られた大橋先生のお話は、分かりやすく、心に語りかけるものがあり、アンケートの内容もおおむね感動、感謝、再発見、などのキーワードで表される前向きな内容であった。

当日は 147 名の参加者があり、多くは医療・介護の従事者であったが、一般市民の参加も 21%あり、一般市民に向けて緩和ケアについての理解がより広がったのではないと思われる。また、フェスタを通して当団体への新規加入者も数名あり、活動に賛同する仲間が増えたことも大きな成果であると考ええる。

フェスタの開催に際しては、自治体（北九州市）の共催も頂き、また地元の医師会等にも後援をいただき、他団体とのネットワークによる広報活動ができたが、まだ一般市民に向けての広報には改善の余地があると考ええる。できるだけ早期に企画

し、早くから自治体の媒体、また SNS などを利用した広報活動をするにより、より多くの集客が期待できると思われる。

■ 成果の広報・公表

当団体は 2017 年に発足して以来、年に 1 回の総会と毎月の世話人定例会開催を基本とし、各研修会やフェスタ等の成果や振り返りを共有し記録している。毎月の定例会では、前回の研修会の成果をもとに随時内容をブラッシュアップし、より良い研修会にするための努力をしている。しかし、公式 Web サイトや SNS（Facebook）はあるものの、更新体制が十分ではないため、残念ながら研修会やフェスタの成果を十分に公表できていないのが現実である。年に一回の総会では、事業報告として各研修会やフェスタの内容報告を行っているが、会員にのみの情報提供であるため、十分な公表には至っていない。とりわけ、当団体の目的でもある「地域でも安心して看取れる社会の構築」を目指す意味での、一般市民に向けての広報活動という点では、努力に欠けるところであることを自覚する。

■ 今後の展開

この度貴事業の助成を受けるにあたり、改めて本活動の趣旨と今までの活動内容を振り返ることができたことがまず大きな成果であると考えている。介護保険や医療保険の制度改革だけでは解決に至らない、現場で起こっている様々な事象を、多職種で地域の中で話し合い、共有する試みは、制度内で行うカンファレンスや地域会議とは異なるニュアンスがあり、より具体的な多職種協働を促す機会であると実感する。このネットワークが緩やかに広がり、地域において職能集団の枠を超えた顔の見える関係が広がり、より良いケアの提供

ができるようになることを引き続き期待したい。さらには、課題でもある一般市民との協働という点で努力に欠ける部分を、今後は広報活動にも力を入れて活動の周知と、市民も参加しやすい内容の検討を行っていきたい。

当団体は 2027 年に活動 10 周年を迎える。活動を振り返る記念誌発行の案も出ており、これまでの活動を振り返りつつ、今後の新たな展望を見据えた取り組みを検討していきたいと考える。